

# むつ市（川内・脇野沢）



## 1 本覚寺 むつ市川内

能登の廻船問屋能登屋長右衛門が1660(万治3)年に遠昭院日住を迎えて創建したもので、能登屋は材木と海産物の商売でおおいに繁盛したという。

## 2 泉龍寺 むつ市川内

寺伝によると、慶長年間(1596~1615)に、相模守寿慶とう武士が落ち延びてきて、川内の愛宕大権現をまつたのが同寺の発祥という。境内の墓地には、ヒバ財の積み出しや造船にきていた塩飽衆の墓碑が4基ある。

## 3 憶念寺 むつ市川内

川内湊で廻船問屋として活躍した仙台屋・敦賀屋・能登屋・木津屋などが有力な檀家となってつくられた寺。

## 4 多善寺 むつ市川内

本堂には、かつて三蔵義経寺の秘仏であったマリア観音が祀られている。

## 5 川内八幡宮 むつ市川内



元龜二年(1571)に宇佐八幡宮を勧請し創立したと伝えられます。川内八幡宮例大祭(県無形民俗文化財)は正徳元年(1711年)に八幡宮のみこしに山車が供奉して歩いたという記録から、少なくとも300年以上の歴史があり、また江戸時代の海運文化の象徴でもあります。

太神楽を先頭に、八幡宮のご神体を納めたみこしや稚児行列、そして上町の辨天山、中浦町の蛭子山、新町の大黒山、浜町の布袋山、仲崎町の舟山(田村麿像)の5台の山車が等身大の尊像を乗せ、豪快優美に、祇園調のおはやしに乗って町内を練り歩きます。昼は古式ゆかしく、夜は

一転してエネルギーに燃える祭に魅力があり、このての山車としては県内随一の大きさを誇っています。

## 6 蠣崎城跡 むつ市川内



蠣崎城は建武元年(1334年)、南部師行の目代として当地に配置された武田修理の居城でした。のちに武田氏は蠣崎氏と称し、改築された蠣崎城は錦帯城と称されました。蠣崎の乱により、根城南部氏の追討を受け、康正3年(1457年)に陥落し、のちに南部氏の領地となった。戦いに敗れた蠣崎氏一族は城を捨てて海路から蝦夷島(今の北海道)へと逃亡したといわれています。

## 7 脇野沢八幡宮 むつ市脇野沢



脇野沢八幡宮は寛永元年(1624)に創建されたと伝えられます。明治以前は「岩清水千手観音社」と称した神仏習合の社堂でした。

例大祭は、二百数十年前に北前船で活躍した商人達に

よって始められ、彼らが脇野沢本村に定住していく過程で祭礼に関与していったといわれています。寛政年間に神輿や神具一式が能登の商人からもたらされ、神輿渡卸による祭礼が始まりました。その後も本村の夏祭りには、海運による経済的發展でもたらされた山車神楽などが加わって拡大し、船山、蛭子山の山車、新井田・瀬野からは道中神楽、滝山神楽、源藤城神楽、さらに、九艘泊・寄浪からは神輿担ぎらが町内を練り歩き、今では脇野沢地区を代表する夏祭りとして親しまれています。(県無形民俗文化財)

## 8 正覚寺 むつ市脇野沢

1691(元禄4)田名部の徳玄寺4世玄察の草創と伝えられる。

## 9 悦心院 むつ市脇野沢

1675年(延宝3)の草創で脇野沢の寺院では最も古く、中寺と通称されている。

## 10 脇沢寺 むつ市脇野沢

本尊は釈迦牟尼仏で、馬頭観音も奉置されている。最初は庵として享保年間に開庵され、1883年に寺号を許された。